

ふくえくぼ

登録番号：第5076号

育成者：宗形 隆 山家弘士 佐久間

登録年月日：平成8年6月13日

宣昭 松野英行 国沢高明

登録者：福島県（福島県福島市杉妻
町2-16）

来歴：「あかつき」の組織培養苗に
ガンマ線を照射した人為突然
変異体

特 性

■栽培特性

樹姿は若木時代はやや直立性を示すが、成木になると開張しやすくなる。枝梢は軟らかいため、側枝は下垂しやすい。樹勢は中程度である。

結果枝はやや細く、新梢の突出が粗いため、中果枝～短果枝は少なく、長果枝～極長果枝および極短果枝が多い。花芽は複芽が多く、節間長はやや長め、葉芽の着生は中程度であり、枝のげ上がりは比較的少ない。

開花期は「あかつき」と同時期であり、花粉を有し、結実は良好である。収穫期は満開後90日～100日で、原品種である「あかつき」より約10～15日早い。福島県で7月中下旬で「八幡白鳳」よりやや早く、「日川白鳳」とほぼ同時期である。

双胚果の発生は少なく、生理落果の発生も少ない。核割れ果の発生も比較的少ない。

しかし、収穫期に降雨が多いと、樹勢が弱い樹を中心に裂果の発生が見られることがある。

■果実特性

果形は扁円形で、梗あいの深さは中程度、縫合線の深さは赤道部で浅く、果頂部では中程度である。果実重は230g前後、着色は容易で乳白色の地色に全面に濃く着色する。果肉は乳白色で溶質であり、果肉内の繊維は比較的少ない。粘核で、果肉内および核周囲の紅色素は少ない、糖度は10～12度で中程度であり、酸味はpH4.5～4.9で少ない。果汁は多く、渋みや苦みはなく、香気は中程度である。日持ち性はやや短い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病害虫に対しては、他の品種と比較し特に大きな差はなく、灰星病、穿孔細菌病、アブラムシ類等主要な病虫害について十分な対策が必要である。

本品種は果肉が軟らかいので、収穫期の判定を的確に行う必要がある。果皮の地色が完全には抜けない緑白色の状態で、「あかつき」に比べやや早めと思われる時期で収穫する。

収穫は果実温の低い早朝に行い、収穫後の取り扱いもていねいに行う必要がある。

収穫期に入ると樹上での成熟の進行が早いので、収穫期間は短く、1回の収穫量は多くなる。

また陽光面に裂果を生じることがあるので、摘果にあたっては葉芽のある部分の果実を残す。

■地域適応性

栽培にはモモ栽培地であればいずれも適するが、成熟日数から、早生種に分類され、梅雨末期となるため、排水の良好地がよい。また樹勢はやや強めで維持することがよく、やや肥沃地が適する。福島県での栽培面積は40haである。

(阿部 薫)